

<p>週報</p> <h1 style="writing-mode: vertical-rl;">こひつじ</h1>
<p>第40巻 36号          大津キリスト教会          菊池郡大津町室 119          TEL 096-293-4470          FAX 096-293-4961          牧師 米村 英二</p>

### 鳥の巣

たまたまあなたが道で、木の上、または地面に鳥の巣を見つけ、それにひな卵がはいっていて、母鳥がひなまたは卵を抱いているなら、その母鳥を子といっしょに取ってはならない。必ず母鳥を去らせて、子を取らなければならない。それは、あなたがしあわせになり、長く生きるためである。(申命記二二の六、七)

### その一 神の目は小さなことに注がれている

通りがかつた道や、すぐに手の届く木の上に鳥の巣があり、母鳥がひなまたは卵を抱いている。その場合、人はそれを捕獲して、食べてよいのか。それに対する神の返答は以下の通り。

ひなと卵は取って食べてよい。しかし母鳥はいけない。母鳥は去らせなければならない。

実に細かい規定である。しかもそれには約束が伴っている。

小さなことはつい軽んじてしまう。ところが神がご覧になっているのは、いつもその小さなことなのだ。そういう意味では、人生に仕事の大小はない。

「おん身が手に執るほうきをもって、世界の一部を清くせられよ」とアメリカの詩人ホイットチャーは歌ったが、人生の価値は、どんな仕事をするかにはない。玄関先のはき掃除であっても、神のためになるなら、世界大の意味を持つことを彼は教えたかったのだろう。説教や伝道だけが神の働きではない。また信仰の実でもない。

実際の所、私たちの日常生活の大部分の時間は、宗教的なことではなく、日常の仕事に費やされている。しかしそれをどうやるかは、その人の信仰に深く関係している。いやむしろその人の信仰や生き方はそういう日常の小さな仕事にこそ現われており、直接的な伝道以上に、人びとの心に福音を語っていると言つてよいのではないだろうか。

ユダヤの寒村ベツレヘムの馬小屋が、その誕生地だったのだ。そこから全人類の救いのわざが始まるとそれが想像できただろう。神は小さなものに喜びを感じられる。そこに神の笑いと、ユーモア、喜びがあるのではないか。人生では、小さな事が、思わぬ救いとなることも少なくない。

船が難破したとき、人は、しばしば甲板の破片や、板の一片にしがみついで助かることがある。そこである人は言った。

「あなたの手元の破片を拾いなさい。あなたに残っているわずかなかりのものを、注意深く気を配つ

て大切にしなさい。そうしたら、やがてそのわずかばかりのものが、あなたを慰めてくれるでしょう」

私たちの救いや慰めも小さなことのなかにあるのではないか。

だからヒルティは言う。

「あなたが、ともすると暗い気分になりがちな時には、小さなものに眼をむけるがよい。小さい花、小さな動物、それから、幼児たちも、容易にある種の喜びを呼びさ

ましてくれる」(『眠られぬ夜のために』第二部一二月八日)と。

このように神は、小さなことを軽んじられない。むしろ人生の重大事は小さなことのなかにある。

そこで神は、鳥の巣をどう扱うかにも、よくよく注意せよと言われたのである。(続)

### 今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。

○教会学校は午前10時から。説教は米村牧師。

### 先週の礼拝

○司会は西岡潤也さん、奏楽は西岡なおみさん。

○説教は林田はるかさん。マタイ五章から。人生では、不当に扱われることもあるだろう。しかし、そんな時も、

「あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい」というイエスの言葉を実践した

ものだと言ってくださいました。○マレーシアから来て半年ほど滞在されていたミツシエルさんの

ご両親が帰国されることになり、礼拝で挨拶をしてくださいました。

ぼくたちの教会につどい、日本に、主にある家族のあることがわかり、とても恵まれた半年だったと語って

くださいました。娘のミツシエルさんたちは、日本で仕事をされているので、またおいでくださることでしょう。

### 先週の出席

礼拝参加者は、第一礼拝が五〇

名、第二が四〇名、合計九〇名(男三三、女五七)。それに子どもが六名、合わせて九六名でした。

### 大津少女合唱団

今日(二五日)午後二時から、大津町文化ホールで行なわれます。今回はなつかしい日本の唱歌を歌ってくださいさるそうです。

ぜひご参加ください。

。楠団地に住む台湾の四家族は、大津までくるのはやはり大変だそうで、団地の公民館を借りて集会

台湾の教会の伝道者たちがくるのは九月一八日〜二一日までです。

牧師のケヴィンさんはお父さんが急に病気になるれて来日できなくなりまして。したがってケヴィン

牧師をお招きしての集会は中止となります。

### 台風と孫の訪問

数十年に一度の巨大台風と報道され、心配しましたが、急にその勢力を落としたのでしようか、教会のほうは、ほとんど被害もなく、

台風は通過してくれました。長男の耕一と孫の志穂が、台風

が近づいているにもかかわらず、予定を変更せず、八月二七日に東京からやって来ました。でも、強い

雨風で何もできなかったのは一日だけで、他は、熊本のジェーンズ邸を訪ねたり、阿蘇へ行ったり

して、楽しんでいたようです。